「たからもの手帳」について

R8

飛騨市「たからもの手帳」は、R1 に作られました。

それまでは「支援手帳」という名称で、発達等に支援が必要とされるお子さんにのみ配布されていました。
「支援手帳」は、障がいの有無に関わらず、そのお子さんの乳幼児期のエピソードや、気を付けること（例えばアレルギーなど）、受けてきた支援（大きな音が苦手、など）やかかった医療、検査結果などを、保護者や保育園、学校が記入し、支援が引き継がれていくようにという意図で活用されていました。

しかし近年、「発達障がい」や「HSC（繊細な子）」など、特性のある子どもたちが爆発的に増え、何らかの支援を必要とする子どもたちが増加してきました。

そのため飛騨市では、誰もがいつからでも支援の引き継ぎができるよう、また支援が必要でない子であっても、保護者が愛情をもってエピソードを記入したことが、いつか子どもたちのエネルギーとなるよう、**全てのお子さんを対象に**「たからもの手帳」が配布されるようになりました。

「たからもの手帳」は、そのような意図で数年間試行され、内容についても記入する人の負担がないようにと変更を重ねてきました。
しかし、時代の変化とともに、スマホ等で写真やデーターを管理することが増え、手帳に記入し保管するという従来の管理方法が、保護者世代には慣れないものになってきました。
また「支援の引き継ぎ」は、用紙に頼らず、現場で直接相談していける体制も整えられてきました。

それを踏まえて、「たからもの手帳」の配布を今年度で終了し、今後は希望者がホームページからダウンロードできるような形に切り替えていきたいと思います。
また、それに伴い、ホームページではいつでも発達促進や健康促進ができるための情報を発信していく予定です。
ぜひ、今後の支援やセルフケアにお役立ていただきたいと思います。

困ったときは
ふらっとへ！

飛騨市総合福祉課　0577−73−7483